

優秀賞

ぼくのレスキューのめ

鹿児島県 中種子町立南界小学校一年 切通 政太

「しょうぼうしになれますように」

ぼくが、たなばたのたんざくにかいたねがいごとです。どうしてぼくが、しょうぼうしになりたいかという、しょうぼうしは、いのちがけでがんばらなくて、ひとのいのちをまもるかっこいいしごとだとおもうからです。

ぼくのおとうさんは、けいさつかんです。けいさつかんも、ひとやまちのあんぜんをまもるためにはたらく、りっぱなしごとです。しょうぼうしのしごとをするまでは、ぼくもけいさつかんになりたいとおもっていました。でも、しょうぼうのイベントにつれていってもらってから、ぼくのゆめは、「しょうぼうし」にかわりました。そのイベントで、ぼくはレスキューたいのつなわたりたいけんをしました。ヘルメットをかぶり、いのちづなをつけて、つなをわたると、もうしょうぼうしになったきぶん

でした。でも、つなわたりをはじめると、なかなかまえにすすまなくてみためよりむずかしいことがわかりました。ほんとうのレスキューたいは、たかいたもののあいだのつなを、すごいスピードですすんでいて、ぼくは「すごいなあ」とかんしんしました。ほかに、しょうぼうふくをきせてもらうと、もえないようにとくべつなぬのでつくってあるので、おもくかんじました。こんなにおもいふくをきて、しようかかつどうやきゅうじよかつどうをするしょうぼうしのしごとは、ほんとうにたいへんなしごとだとおもいます。でも、そのすがたはまるでヒーローのようだとおもいます。そのひから、「ぼくもしょうらいヒーローのようになししょうぼうしになって、ひとのいのちをまもりたい」とおもうようになりました。

そのあとあったひなんくんれんで、しょうぼうし

さんのおはなしをきくことができました。ぼくは、
「どうしたら、しょうぼうしになれますか。」
としつもんしてみました。すると、しょうぼうしのおにいさんが、

「たくさんたべて、いっぱいねて、おとうさん、お
かあさんのいうことをよくきいて、つよいこころ
とからだをつくるのがたいせつだよ。」

といました。そして、ぼくが、

「ぼくもしょうぼうしになりたいです。」

というと、しょうぼうしさんは、

「おおきくなったら、いっしょにはたらこうね。ま
っているからね。」

と、やさしくいってくれました。ぼくは、そのこと
ばに、かんだうしてないてしまいました。

ぼくは、いまでもこのひのうれしさをわすれずに
います。おとなになったら、しょうぼうしになって、
たすけをもとめているひとのところへはやくいって、
たすけてあげたいです。そして、たくさんのひどの
いのちをまもるヒーローのようなしょうぼうしをめ
ざします。

